

第二部の懇親会は66名参加した。各々の懇親の他に中尾委員、佐相委員の司会のもとで、剣舞あり、外郎売りの実演あり、シャンソン「枯葉」の熱唱ありの楽しい一時を過ごした。

(この項文責：永井ますみ)

講演 植村正純氏

「心にしみた詩歌のモチーフ」

一井上靖・斎藤茂吉・北見志保子

◇井上靖「傍観者の感慨」

今日はおくまでも私が一読者として愛してきた詩歌人の作品、モチーフとの出会いをお話しすることをお許しください。井上靖の少年時代は沼津千本浜で友達と遊び、海を眺めて詩をうたうという無垢な時間がありました。クレマチスの丘の井上文学館文学碑には、「思うどち／遊び惚けぬ／そのかみの／香貫我入道／みなとまち／夏は夏草／冬は冬濤」が、千本浜公園詩碑には「千個の海のかげらが／千本の松の間に／挟まっていた／少年の日／私は 毎日／それを一つずつ／食べて育った」と刻まれています。井上の沼津中学三年の時、友人の藤井寿雄の詩「カチリ／石英の音／秋」に感動し、また金沢の高校時代は室生犀星、三好達治、佐藤春夫、萩原朔太郎らの作品に出会っています。井上が小説を書く一方で詩とも離れなかった理由が青春時代にありました。第二次世界大戦の後、昭和二十一年秋、奈良博物館で正倉院展が開かれ、そこに不思議な異文化を思わせる「漆胡樽（しっこそん）」が井上の心を捉えさせた。彼は漆胡樽を詩、小説、随筆に書き、まさに漆胡樽は新聞記者をしていた井上靖を小説家にするきっかけとなりました。その後「真の傍観者の目」で「物」をひたすら見て「事物に託す人間の普遍的な象徴劇」を書いた井上文学は、この時点から歳月を越えて読み継がれて行きます。

戦後小野十三郎や関西の詩人と交わり、京都の和語の世界に入り、大らかに人々に接したことも、詩

人小説家の大成につながりました。

◇斎藤茂吉「歌は悲しきWonne（歓喜）」

私がまだ子どもの頃、茂吉が昭和二十七年に斎藤茂太に支えられて浅草の浅草寺に参詣した時の、老いた写真に接して、妙に心惹かれました。その写真の翌年、彼は満七十歳で逝去。その際、遺体解剖に立ち会った息子は「もうこれ以上生きられぬほどに痛めた身体で頑張ってきた父の多事多端の人生を、改めて思いやった」と述懐しています。

「短歌は（悲しきWonne）」だと言い、終始短歌の世界にあつて日本随一の大歌人となり、作品に不思議な複雑さをもたらし、近代的な官能に打ち震えながら、野性的な生活力を持った古代的人間であった。」と山本健吉は言っています。「悲しきWonne」は、茂吉の創作人生を象徴する言葉です。

茂吉は短歌形式の言葉の制約を前にして、作者が激しく言語世界をさぐってこそ、抒情性豊かな文学に結晶するという信念を持っていました。それが彼の生涯の文学活動のエネルギー源でした。

◇北見志保子「人恋う悲しき」

北見志保子（一八八五～一九五五年）は、高知県宿毛の出身。父の早逝、苦学、単身の上京、教員と歌作の生活、結婚・離婚、新たな恋と離別関西への漂泊等の波乱の人生を送りました。拙宅には北見志保子自書の短歌「平城山」二首の短冊が残っています。私の亡父（植村武）は、晩年の北見と結社を共にした時期がありました。

彼女は昭和九年秋、母の法要のための帰郷の途次奈良に寄り、佐紀路の仁徳皇后陵、「磐之媛皇后御陵」の連作を詠みました。

人恋ふはかなしきものと平城山に  
もとほりきつづ堪へがたかりき、  
台へもつまに恋ひつづ越えしとふ

平城山のみちに涙おとしぬ

更に平井康三郎の作曲で、昭和十年に歌曲『平城山』が発表されました。

関西詩人協会決算報告

2018年10月1日～2017年9月30日 会計担当 岩井 洋 (単位円)

1 一般会計		収入		支出	
科目	金額	科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	391,584	会議費	241,031	会場費、懇親交通費、委員活動費、事務費他	
入会費	8,000	法報費	358,165	会報83～86号発行部	
会費	712,000	名簿刊行費	88,139	名簿印刷、事務諸経費	
雑収入	160,067	事業費	60,460	イベント補助、詩南展、協会小販作成等	
		講演会費	65,000	総会、詩話会講師謝礼	
		HP作成費	15,000	HP制作関係	
		入会審査費	6,000	連絡、事務諸経費	
		総会	18,123	総会費用補填	
		会計事務費	28,990	事務諸経費他	
		庶務費	16,834	供花代他	
		積立金	30,000	特別会計へ	
		文化団体加盟金	24,752	天文連会費、文芸年鑑購入他	
		選挙管理委員会	55,300		
		小計	1,007,794		
		繰越金	263,857		
合計	1,271,651	合計	1,271,651		

  

2 特別会計		摘要	
項目	収入	支出	
繰越金	206,540	0	
積立金	30,000	0	積立
預金利息	1	0	
計	236,541	0	次年度へ繰越
繰越		236,541	

関係帳簿などにつき監査いたしましたところ、何れも正確且つ妥当である事を証明いたします。

2017年11月2日

会計監査

瀬野とし



もとより創作・仮構の文学世界ながら、この歌曲を読み聴く人には、「記紀万葉の歌謡が伝える、奈良佐紀路の陵墓に眠る磐之媛皇后の、夫仁徳天皇に寄せる想い」と「北見志保子の波乱の人生」とが二重写しになって響きます。(文責 名古きよえ)